



ICTまちづくりに関する情報交換会（第8回）を開催



セミナー会場の様子



開会挨拶
北陸総合通信局長
菱田 光洋



まとめ
北陸情報通信協議会
G空間×ICTまちづくり
推進部会長
飯島 泰裕



開会挨拶
APPLIC 理事長
吉田 真人

北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕金沢大学客員教授）は、令和6年12月13日（金）に、北陸総合通信局、一般財団法人全国地域情報化推進協会（APPLIC）と共催で、「地域情報化広域セミナー2024 in 北陸」を開催しました。（※第8回「ICTまちづくり情報交換会」を兼ねて開催）G空間部会からは15名が参加しました。

セミナーでは、はじめに主催者を代表し、北陸総合通信局の菱田局長より開会の挨拶を行いました。

石川県の福居氏より、能登半島地震における避難者情報の課題から広域被災者データベースの構築と奥能登豪雨での活用事例など今後の震災対応に向けた取組を、防災科学技術研究所の臼田氏より、リモートにて能登半島地震における災害対応や石川県の被災者DBの構築支援等の取組、能登半島地震の経験・課題を踏まえた今後の方針を、APPLICの進氏より、避難行動要支援者名簿と被災者台帳システムの標準化に向けた取組、住民地図や地理空間情報（GIS）の活用事例をそれぞれご講演いただきました。

事例紹介として、会津若松市の伊藤氏より、住民基本台帳とGISを組み合わせた街づくりや市内におけるGISの活用等についてご講演いただきました。

また、北陸総合通信局の川合室長より、能登半島地震、奥能登豪雨で行った同局の通信機器の活用支援、通信インフラの確保等の災害対応、復旧への支援施策について紹介しました。

その後、北陸情報通信協議会の飯島部会長より、本セミナー全体のまとめを行い、最後にAPPLICの吉田理事長より、閉会のご挨拶をいただきました。

セミナー後、登壇者を囲んで交流会を開催し、情報交換の機会となりました。



石川県 福居 久志 氏



防災科学技術研究所
臼田 裕一郎 氏



APPLIC 進 啓俊 氏



会津若松市 伊藤 文徳 氏



北陸総合通信局 川合 徹

プログラム

- 「能登半島地震におけるデジタル技術を活用した被災者把握について」
石川県 デジタル推進監室
県庁デジタル推進課長 福居 久志 氏
- 「デジタル技術を活用した災害対応支援～能登半島地震をふまえた事例～」
国立研究開発法人防災科学技術研究所
総合防災情報センター センター長
防災DX官民共創協議会（BDX） 理事長
臼田 裕一郎 氏
- 「地理空間方法を活用した避難行動要支援者名簿と被災者台帳標準化の取組について」
APPLIC GISワーキンググループ 主査 進 啓俊 氏
- 「地理空間情報を活用した街づくりや防災対策について」
福島県会津若松市 企画政策部情報統計課
主幹 統合GIS活用検討チーム
総務省地域情報化アドバイザー 伊藤 文徳 氏
- 「北陸総合通信局の災害対応と復旧・復興支援」
北陸総合通信局 防災対策推進室長 川合 徹